

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和7年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和7年7月18日 発行

心身共にリフレッシュと自己成長の機会に

校長 菅野 恭子

本日で1学期が終了し、夏季休業期間に入ります。保護者や地域の皆様には、学校の様々な教育活動等に御理解と御協力をいただきましてありがとうございました。登下校の見守り、家庭学習の支援、勉強道具等の整備、日々の子どもの気持ちへの寄り添い等、ご多用の中きめ細かに見ていただいたことが伝わってきました。学校では自主性等を育成するために、様々な声掛け・指導・支援等を継続的に行っています。子どもたちも精一杯自分に向き合い、努力を重ねています。そこに、保護者や地域の方々など様々な方が見守り、支援、価値付け、応援等を行っていただくことで、子どもへの働きかけが継続し、子どもたちは安心して少しずつできることを増やし、自信をつけていきます。

一人一人、得意・不得意は異なります。思うような結果が出ないこともあります。一生懸命に努力する姿は全て美しく大変価値あるものです。「得意・不得意に気付く」「得意を伸ばす・生かす」「不得意に向き合う」「新しいことに挑戦する」「過程を楽しむ」「結果を喜ぶ・受け入れる・次につなげる」等、このようなことが大切であると子ども自身が理解して取り組めるよう、引き続き教育活動の充実を図っていきます。

明日からは家庭や地域等で生活する時間が増えます。ぜひ、心身ともにリフレッシュをし、挑戦したいこと等の経験を通して自己成長の機会にしてください。

「全校朝会を通して」

全校朝会では、子どもの記憶に残る話になるように話のテーマを冒頭に伝え、できるだけ分かりやすく長すぎない話を心掛けています。また、学校だよりの巻頭言とも関連をさせています。話を聞く子どもたちの様子を4月から比べると、話し手の方に体を瞬時に向け、立ち姿も安定し、考えながら聞いている表情が多くなりました。また、先日の全校朝会で、私が今までに朝会等で話したテーマを4月から一つ一つ挙げる際、テーマの前半を投げ掛けると後半は子どもたちから返ってきました。例えば、「挨拶は心を込めて」と言うのと「自分から」というように。

日々、教職員から子どもたちの様々な様子の報告がたくさん私のところに届きます。頑張っていることや悩んでいること、成長したこと等、私達もみんなと一緒に喜び、驚き、悩みながら明日を迎えています。そのため、全校朝会での話は学校全体でそのときに必要な話が多くなっています。全校朝会が終わると、いろいろな学年の子どもたちが「今、〇〇をやっています」「〇〇ができるようになりました」など、経過報告や頑張り宣言を伝えに来ます。様々な話を聞きながら、自分で自分を高める力が育つよう、引き続き教職員一同取り組んでいきます。

「挑戦できる機会・工夫してやってみる機会の充実を」

今年度、子どもたちの自己肯定感を高めるために、自分の成長を実感できる機会の充実を図っています。大人ができることには「子どもが挑戦できる機会の設定」があります。子どもができることには、「より良くするために工夫してやってみる機会を自ら考える」があります。そのため、教員も日々の学級経営やクラブ・委員会活動の中で、子どもたちに現状を捉えさせながら課題の改善策を提案できるような活動をしています。今週は、新たに始めた「音読王発表会」と「ダンスクラブ発表会」を行いました。堂々と発表した友達の姿を見て、学ぶことも多かったと思います。発表をした子どもたちは、当日を迎えるまでの過程や本番のよい緊張感、達成感等、様々な経験ができ自信につながりました。今後も、様々な機会を工夫して展開していきます。子どもたちが興味をもった際には、ぜひ、背中を押してみてください。

1学期、様々な経験を通して大きくなった子どもたち。夏休み明けにまた再開できるのを教職員一同、楽しみにしています。



挑戦できる機会

「音読王発表会」

詩集から選んだお気に入りの詩を全校児童の前で一人ずつ堂々と発表しました。音読の後には、一言感想を添えて今回の学びを振り返ることもできました。



工夫してやってみる機会

「ダンスクラブ発表会」

ロング昼休みの時間を使ってダンスクラブの子どもたちがダンスをしました。みんなが楽しく体を動かせるように選曲や振り付けを工夫しました。